

# シューマン × ブラームス

ベネデット・ルーパー  
ピアノ・リサイタル

*Romance*  
ロマンス

ブラームス(生誕190周年)

6つの小品 op.118

ブラームス

4つの小品 op.119

シューマン

3つのロマンス op.28

シューマン

ピアノ・ソナタ 第2番 ト短調 op.22

2023 7.21 (金) 19:00開演 (18:00開場)  
全席指定 5,000円(税込)

〈ご予約・お問合せ〉 ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333 (火曜定休) <https://www.symphonycity.jp>

プレイガイド

- e+ (イープラス) <https://eplus.jp/symphonycity> (パソコン・携帯)
- ローソンチケット <https://l-tike.com/symphonycity> [Lコード:54195]
- チケットぴあ <https://w.pia.jp/t/symphonycity> [Pコード:236-294]

※未就学児のご入場は御遠慮いただいております。※やむを得ない事情により、出演者、曲目、曲順が変更になる場合がございます。  
※公演中止・延期の場合を除いて、チケット代金の払い戻しは承りません。予めご了承ください。

ザ・シンフォニーホール

主催：ザ・シンフォニーホール



後援：



Consulate General of Italy  
Osaka

イタリア文化会館一大阪

在大阪イタリア総領事館

# シューマン×ブラームス

イタリアのピアニスト、ベネデット・ルーポがザ・シンフォニーホールに初登場！アルド・チッコリーニのもとで学び、ニキタ・マガロフやホルヘ・ボレットらの薫陶を受け、ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールで上位入賞を果たした。また、ピアノの教育者としても知られ、気鋭ベアトリーチェ・ラナも彼のもとで研鑽を積んでいる。

歌うような表現は、ルーポの演奏における魅力のひとつだ。今回のリサイタルでは、ブラームスとシューマンという、ドイツ・ロマン派のプログラムに挑む。ルーポが特に心を寄せるこの二人の作曲家は、作品のなかに深く自身の感情を織り込んでいる。彼らほど演奏者の共感を求める作曲家はいない。ブラームスの晩年の境地と若きエネルギーに満ちたシューマンの世界を、内面からほとばしる熱いパッションと歌心によってルーポがどのように聴かせてくれるのか、実に楽しみである。

文・道下京子

## Message

大阪の皆様の前で演奏できることを大変嬉しく思っています。今回は古典様式を扱う際の若きシューマンの苦悩と、その古典様式をブラームスが彼の最晩年のピアノ曲で放棄したことに注目しました。ブラームスの小品集op.118とop.119における心の奥底の痛みは老年期の苦々しさであるにもかかわらず、ときに若きシューマンの内面的苦悩へと帰結します。シューマンの3つのロマンスop.28を選んだのは、ロマンス第2番でシューマンは、ブラームスが多くのピアノ曲で好んで使用しているピアノの色を既に見出しているからです。最後はピアノソナタ第2番の若き激情で締めくくります。

■ ■ ■

### [ピアノ] ベネデット・ルーポ *Benedetto Lupo*

1963年7月3日、南イタリアのバリ生まれ。同世代のアーティストの中でも屈指の才能を持つと評されるピアニスト。1989年、ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールでイタリア人として初めて銅賞を受賞し、世界の音楽界で注目を集めたのをきっかけに、イヴ・アベル、ウラディーミル・ユロフスキ、ケント・ナガノ等の有名な指揮者の招待で欧米の名だたるオーケストラと共演。精力的に演奏活動を展開し、リンカーン・センター(米)、サル・プレイエル(仏)、ウイグモア・ホール(英)、ベルリン・フィルハーモニー(独)等の世界の主要ホール、そしてタンゲルウッド音楽祭、イスタンブール国際音楽祭等の国際フェスティバルにも定期的に出演している。

欧米の多数のラジオ、テレビの収録に加え、TELDEC、BMG、VAI、NUOVA ERAレーベルでCDをレコーディング。2005年にはHarmonia Mundiからニーノ・ロータの「Concerto Soirée」(夕べの協奏曲)の新録音をリリースし、ディアバゾン・ドールをはじめ国際的な賞の数々を受賞した。室内音楽者としても活躍するピアニストだが、指導者としても評価が高く、現在、サンタ・チェチーリア音楽院で教鞭を執る。ニーノ・ロータ音楽院ではベアトリーチェ・ラナも指導した。

ベネデット・ルーポ  
ピアノリサイタル

Romance  
ロマンス

